

心臓及ビ脈管ノ先天性畸形ニ就キテ：
先天性肺動脈狹窄、肺動脈辨異常、卵圓孔不全閉鎖
、室中隔欠損。大動脈弓部動脈起始ノ異常、大動脈
峽部狹窄。附肺及ビ脾ノ先天性畸形

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38566

十全會雜誌

（第參拾七號）

原著及實驗

○心臟及ビ脈管ノ先天性畸形ニ就キテ

先天性肺動脈狹窄、肺動脈辨異常、卵圓孔不全閉鎖、室中隔欠損。大動脈弓部動脈起始ノ異常、大動脈峽部狹窄。附 肺及ビ脾ノ先天性畸形

金澤醫學專門學校病理教室

特別會員 小原芳雄

（澤金）

緒言

此篇ハ十全會講談會第三十四例會ニ於テ述ベタルモノナリ。

抑モ心臟ノ先天性畸形ハ、敢テ稀有ナルモノニ非ラズ、病床上ニモ、病理解剖上ニ於テモ、屢々遭遇スル畸形ノ一ニ屬セリ。ソレ故ニ從來洋ノ東西ニ於テ、報告セラレタル症例ハ、今ヤ、實ニ、數百ノ多數ニ上ルニ至レリ。而シテ、シカク屢々實見スルモノナルヲ以テ、此種ノ研究ハ、實地上、緊要ナル價值ヲ有スルモノナリ。然レモ、殊ニ興味ヲ有スルハ、發生上ノ關係ニシテ、現時ハ、畧々、其成立ニ關スル學說ノ一致ヲ見ルニ至レリト雖モ、之レ、

遠ク十八世紀時代ヨリシテ、多數學者ノ腦漿ヲ費セシ所ナリトス。

余ガ、コ、ニ、偶々解屍ニヨリテ得タル一例ヲ報告セントスルモノ、唯、此等學者ノ講究ニナレル發生上ノ關係ヲ説明スル上ニ於テ、ヤ、ニ、興味アリト信ズルヲ以テノ故ナリ。豈ソレ、成立上ノ學說ヲ云々スルハ、淺學短才ナル年少白面ノ余輩ニ、企及スベキ所ニアラザルナリ。

大動脈弓部動脈幹起始ノ異常、亦タ、解剖學者ノ討究ニヨリテ、既ニスデニ、明ラカナル所、肺及ビ、殊ニ脾ノ畸形ニ至リテハ、特ニ、コ、ニ、報告スルノ價値ナカラシ。然リト雖モ、全一屍ニ就キテ、此等多クノ畸形ヲ併存シタリトセバ、其ノ間、多少ノ興味ヲ有セズト謂ハンヤ。

第一章、先天性心臟畸形、

第一項、先天性心臟畸形ノ種類、

心臟ノ先天性畸形ニ就キテ、多クノ種類ヲ區別ス、然レモ、先天性畸形ノ大多數ハ、二ヶ以上ヲ合併シ、獨單ナルモノ却ツテ稀レナリ。

通常臨床家ハ、畸形ノ著明ナルモノ、又ハ、ヨリ屢々見ル所ノモノニ就キテ、區別セリ、例ヘバ、四種トシテ、

一、肺動脈狹窄乃至閉塞 Stenose od. Atrésie der Art. pulmonalis.

二、「ボタリー」氏管開(留)存 Persistenz des Ductus Botalli.

三、卵圓孔開存 Persistenz des Foramen ovale.

四、室中隔欠損 Defekt des Kammerseptums.

トナスモノアリ。或ハ尙之レニ、

- 五、先天性三尖瓣口狹窄、Angeborene Trikuspidalstenose.
 六、先天性大動脈狹窄、Angeborene Aortenstenose.
 フ加フルモノアリ。

病理解剖上ニ於テハ、更ニ、多クノ種類ヲ區別ス。例ハ、

- 一、肺動脈狹窄、乃至閉鎖(肺動脈圓錐部、瓣口、幹部)、Stenose od. Atrésie der Art. pulmonalis. (am Konusteil, Ostium, u. Stamm)

- 二、大動脈狹窄、乃至閉鎖(瓣口、大動脈系)、Stenose od. Atrésie der Aorta. (am Ostium u. Aortensystem.)

- 三、「ボタリー」氏管開口部ト左鎖骨下動脈分岐部トノ間ニ於ケル大動脈狹窄、Stenose der Aorta zwischen der Einmündung des Ductus Botalli u. der Abgangsstelle der linken Subclavia.

- 四、靜脈口ノ狹窄乃至閉鎖、Stenose u. Atrésie der venösen Ostien.

- 五、大ナル脈管幹ノ轉置、Transposition der grossen Gefässstämme.

- 六、房中隔缺損(口)、Defect im Vorhofsseptüm.

- 七、室中隔缺損(口)、Defect des Kammerseptüms.

- 八、動脈口辨ノ畸形、Die Missbildungen der Klappen an den arteriellen Ostien.

- 九、房室瓣畸形、Die Missbildungen der atrioventriculären Klappen.

- 十、「ボタリー」氏管留存、Persistenz des Ductus Botalli.

- 十一、心臟ノ成形過小、Hypoplasie des Herzens.

十二、先天性心臟肥大、Angeborene Herzhypertrophie.

十三、心臟ノ先天性異常位置、Die angeborenen abnormen Lagerungen des Herzens.

之レニ加フルニ、

十四、臍索ノ異常、Die abnormen Sehnenfäden.

十五、室壁ノ肉柱樣構造、Der trabeculäre Bau der Ventrikelwand.

ノ二者ヲ以テスルモノアリ。

此等各種類ニ就キテノ記述ハ、通常、多クノ成書ニ、載スル所ナルヲ以テ、茲ニ、説クノ要ナキモ、聊カ、諸君ノ復顧ニ便スル所アラント思ヒ、且ツハ、余ガ、説述上、多少ノ便宜アルニヨリ、余ノ例ニ關係アルモノノミ、簡單ニ記サント欲ス。

肺動脈ノ狹窄乃至閉鎖、ハ心臟畸形中、最モ屢々見ルモノニシテ、其ノ狹窄ハ、肺動脈圓錐部 Conus arteriosus pulmon. 或ハ、動脈口 Ostium arteriosi pulmon. 若クハ、動脈幹部 Truncus arteriosus. 等ニ生ジ、此三部合併シテ來ルコアリ、或ハ、單獨ニ、來ルコアリ。而シテ、屢々、同時ニ、該動脈瓣膜ノ畸形ヲ伴フ、時トシテハ、動脈口ノ全ク閉鎖セルコアリ。

屢々他ノ畸形、殊ニ、室中隔壁ノ欠損ト合併シ來ル、ステッフエン氏ニヨレバ、純粹ナル肺動脈狹窄ハ、僅々、一〇、〇%ニ過ギズト云フ。

其狹窄ノ來ルヤ、或ハ單獨ノ發育異常トナリテ、或ハ、胎生時心臟内膜炎 Totale Endocarditis ニヨリテ、其原因機轉ノ由來スルコアリ。動脈圓錐部狹窄ノ大多數ハ、心内質炎 Myocarditis ノ爲メ、彼ノ胼胝 Schwiele ヲ生ジテ、狹

窄ヲ惹起スルモノナリ。又、此ノ部ノ狭窄ニ於テ、甚ダ稀レナルモ、圓錐部ノ基底、若シクハ、先端ニ、筋肉質隆起ノ突出アリテ、狭窄スルモノアリ。胎生時心内膜炎ノ存在ニヨリテ、肺動脈半月狀辨ノ畸形ヲ生ジ、此ノ部、環狀ニ狭窄スルアリ、又、辨膜ノ癒合シテ、二ケトナル場合アリ。動脈幹部ノ狭窄ハ、動脈内膜炎ノ存在ニヨルアリ。又腮弓ノ發育欠損ニ起因スルアリ。

斯クノ如キ狭窄ノ多數ハ、既ニ、胎生生活ノ第二ヶ月ノ終、若シクハ第三月ノ初メ以前ニ起ルモノナリ。ソノ爲メ當時、尙全ク完成セザリシ、室中隔壁ハ、右室内ニ、トゞマレル血液ノ直ニ左室内ニ赴クガ爲メ、遂ニ其閉鎖ヲ全クスルヲ能ハズ、コヽニ、室中隔壁ノ欠損ヲ來スベキナリ。加之又、同様ノ關係ニヨリテ、完成セル室中隔壁ノ、再ビ穿孔セル場合ヲ、報告セルモノアリ。

肺動脈ノ狭窄ニヨリテ、障礙セラレタル肺循環ヲ平均センガ爲メ、「ボタリー」氏管ノ開通スルヲアリ。又卵圓孔ノ開存ヲ伴フアリ。前ノ場合ニ於テ、血液ハ、大動脈ヨリ肺動脈内ニ逆流ヲ起スベク、之レニヨリテ、單ニ開通セルノミナラズ、著シク擴張ヲ起スヲアリ、ゲルハルト氏ニヨレバ、肺動脈狭窄ノ殆ンド半數ハ「ボタリー」氏管ノ開通ヲ伴フト云フ。后ノ場合ニハ、右心内ニ鬱滯セラレタル血液ノ、右上房ヨリ直ニ、左上房ニ赴キテ血行ノ平均ヲ保ツベシ。而シテ、肺動脈ノ狭窄又ハ閉塞ニシテ、「ボタリー」氏管ノ開通ヲ併存セザル場合ニ於ケルハ肺循環ハ如何ニシテ營爲スルカト云フニ、氣管支動脈、心囊動脈、食管動脈等ノ大動脈枝別ヲカリテ、代償セラル、モノナリト云フ。然レモ、大多數ハ、全身靜脈系統ノ鬱積ヲマスガレザルモノトス。

斯ク肺動脈狭窄ヲ起シタル場合ノ心臟ノ變化ハ、種々ニシテ、心臟ハ、全体ニ肥大シ、且ツ横徑ノ増加著シク、爲メニ球形ニ近似シ、若シクハ鈍キ圓錐形ヲ呈スルニ至ル。而シテ左右室ヲ比較スルニ、左ヨリモ右室ノ肥大擴張甚

シク、心尖ハ右室ニヨリテ形成セラルベシ。然レモ、肺動脈ノ全閉鎖ニシテ、兩室間ノ異常交通ナキ場合ニハ、右室ハ萎縮スルヲ通常トス。

肺動脈狹窄ノ頻度ニ就キテ、Gerhardt氏ノ示ス所ニヨレバ、先天性心臟病ノ五分ノ三以上ハ此種ニ屬シ、猶年齢ノ進ムニ從フテ、其頻度ヲ増ス、即チ十二歳以上ニ生活シタル先天性心臟病ヲ有スルモノ、五分ノ四以上ハ、此狹窄ナリト云フ。

「ボタリー」氏管開口部ト左鎖骨下動脈トノ間(大動脈峽、Isthmus aortae)ニ於ケル大動脈狹窄ノ輕度ナルハ、稀レナラズ。然レモ、其高度ナルモノハ、モトヨリ稀有ニ屬セリ。又、極メテ稀レナレドモ、此部ニ於テ、大動脈ノ全ク閉塞シ、或ハ全然欠亡スル場合アリ。斯クノ如キニ於ケル血液循環ハ、僅カニ、鎖骨下動脈、及ビ、胸部并ニ腹部下行大動脈ノ動脈枝、例ヘバ、内乳動脈、其ノ枝別ナル前肋間動脈、第一(最上)肋間動脈、脊及ビ横肩胛動脈、肩胛下動脈、外胸動脈等ノ擴張ニヨリテ、上腹壁動脈及ビ後肋間動脈ニ血液ヲ送り、コ、ニ吻合流通ヲ營ムモノナリ。其發生機轉ニ就キテハ、種々ノ說アルモ、コ、ニアゲズ。

大動脈ノ狹窄乃至閉鎖。ハ、稀有ノ畸形ナリ。而シテ或ハ、心室中隔ノ欠損ナクシテ、或ハ、之レヲ合併シ、若シクハ、他ノ心畸形ト伴フテ來ル。其狹窄又ハ、閉鎖ヲ來ス部位ハ、大動脈管口ナルアリ、又大動脈系 Aortensystemニ來ルヲアリ。大動脈口ノ高度ノ狹窄乃至閉塞ニシテ、室中隔ノ完成セル場合ノ血液循環ハ、多クハ同時ニ開存セル卵圓孔又ハ「ボタリー」氏管ニヨリテ、主ニ右心ニ於テ行ハレ、血液ハ、肺動脈ヲ以テ、大、小循環ヲ營爲スルモノナリ、此際多クハ左室、又ハ左房ノ不完全ナル發育ヲ呈セリ。

Raichliss 氏ハ、大動脈口ノ狹窄ニ就キテ、次ノ如キ統計ヲ示セリ、即チ、三十三例ノ中、二十四例ハ中隔閉鎖セ

ルモ、他ノ九例ハ、種々ノ程度ノ開通ヲ有ス。又二十四例中、三例ハ左室全ク欠ケ、其他ハ、多數ハ左室甚シク小、又壁ノ肥厚アルモノ少クナカラズ、殆ンドスベテ壁及ヒ辨ノ心内膜炎ノ著シキ、且ツ廣延セル状態ヲ呈セリ。之ノ室中隔ノ完成セルモノ、四分ノ三ハ、大動脈辨口ノ閉鎖充分ナルモ、スベテ其辨膜ニハ炎症機轉存セリ。而シテ氏ハ、此ノ二十四例トモ、スベテ胎生時心臟内膜炎ニヨリテ生起シタリトナシ、左室ノ大サハ其原因タル胎生時心臟内膜炎ガ、胎生生活ノ幾何時ニ起シタルカノ時期ニ對シテ Index タリ得ベシト、論ゼリ。又他ノ九例ハ、前中隔後部ノ欠損、或ハ室中隔壁ノ大部分欠損セルモノニシテ、氏ハ、其發生機轉ヲ説明スラク、胎生時心臟内膜炎ニ非ラズ、異常原基アンライゲニアル動脈幹中隔 *Septum trunci arteriosi* ノ發育機欠亡ニヨレバナリト。

大動脈口ノ高度ノ狹窄又ハ閉鎖ハ、胎生時血行ヲ障害スルコト少シ、是レ、兒ハ多クハ、生活ヲ失フヲ以テナリ。マタ娩出後死ニ至ルモノアリ。而シテ半數ハ、生後第一週ニシテ、八分ノ一ハ、第二週、一兒ハ第三週迄生活セリト云フ。

大動脈系ノ狹窄ハ、ハジメ Morgagni 氏ニヨリテ記載セラレ、後多クノ學者ニヨリテ研究セラレタルガ、就中 Virchow 氏ハ大動脈系狹窄ト萎黃病トノ關係ヲ説カレタリ。

大ナル脈管幹ノ轉置、心臟ニ出入スル動脈系又ハ靜脈系ノ脈管幹ガ、正常ノ房、又ハ室ニ入り、又ハ出テ、異常ノ位置ヲトルコアリ。或ハ全ク他半側ノ房、又ハ室ニ出入スルコアリ。例ヘバ、大動脈幹ノ右室ヨリ起リ、或ハ肺動脈ノ左室ヨリ起レル、若シクハ大靜脈ノ左房ニ開口セルガ如シ、此畸形ハ單獨ニ發シ、又ハ屢々脈管、中隔ノ畸形ト併發ス。

此ノ場合ニ於ケル血行ハ、動脈血及靜脈血ノ混合ヲ起スベシ、而シテ誕生後、死ノ轉歸ヲトルモノ多シト雖モ、又

比較的高齡ニ達スルモノナキニアラズ。斯クノ如キモノ、血行ハ、氣管支靜脈及ビ肺靜脈間ニ、吻合成立シ、動脈血ハ肺靜脈ヨリ氣管支靜脈ニ至ルモノト説明セラル。若シマタ、卵圓孔開存「ボタリー」氏管留存、或ハ室中隔欠損ヲ併存スルキハ、左室内血液ノ一部ハ、右心、又大動脈内ニ入りテ比較的都合ヨキ循環ヲ營爲シ得ラルト云フ。

室中隔ノ欠損(亡)、室中隔ノ全部欠損ニヨリテ、心臟ハ二房一室ナルコアリ。(Cor biloculare biatrium)、然レモ之ノヨリモ屢々見ルハ、室中隔ノ膜樣部 (Der membranöse Teil) 或ハ、最上肉質部 (Der oberste muskulöse Teil des Septums) ニ來レル欠損ナリ。而シテ之ノ欠損ハ、單ニ一個ノミナルコアリ、或ハ二個又ハ數箇存スルコアリ欠損ノ大小ニモ種々アリ。又欠損ハ左右室ノ交通ノミナラズ、室房間ノ交通ヲナスモノアリ、例之、Thibert 氏ノ例ハ四個ノ心臟腔スベテ交通セルモノナリシト云フ、Heschl 氏ノ報告例ハ、大動脈辦ノ下ニ於テ、一仙、廣ノ一溝アリテ、右室ノ先端ニ達セリト云フ。

此畸形ハ、房中隔ノ欠亡、(Cor biloculare) 或ハ動靜脈管口、及ビ幹ノ畸形ト併發スルコ多シ。膜樣部ノ欠損ハマタ留存セル動脈幹 (Truncus arteriosus) ト合併シ、其他屢々同時ニ肺動脈狹窄ヲ伴フ。

膜樣部局部欠損ニ於テハ、大動脈ノ右方ニ轉位シ、或ハ欠損部ヲ越ヘテ兩室ニ跨リ (reiten)、又ハ全ク右室ヨリ起レルヲ見ル。此際肺動脈ハ右室ヨリ、若シクハ左室ヨリ起始ス。

C. v. Rokitsansky 氏ハ室中隔上部ニ來ル欠損ヲ其部位ニヨリテ三種ニ區別セリ。即チ、

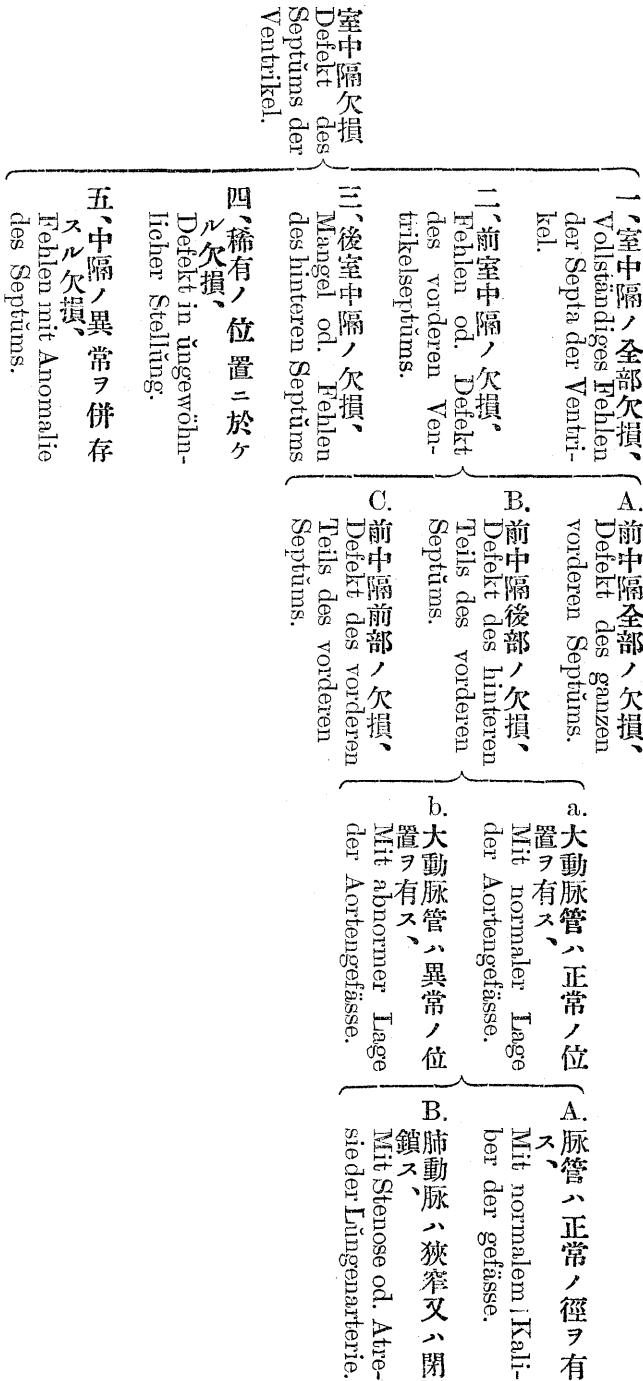
一、後中隔、Das hintere Septum. 膜樣部ノ後方ニアル部分。

二、前中隔ノ前部、Der vordere Teil des vorderen Septums. 肺動脈圓錐部ノ筋肉質ニ屬シ、膜部ニテノ前部。

三、前中隔ノ後部、Der hintere Teil des vorderen Septums. 左室ノ筋肉質ヨリ成リ、大動脈ヲ前及ビ右方ヨリ

圖メル中隔ノ部分ニシテ、膜樣部ノ前ノ部分。

而シテ第三ハ、最モ屢々見ルモノニシテ、第一ノ部位ニ於ケルモノハ、最モ大、且ツ殆ンド例外ナク、二尖瓣ノ大動脈ニ對スル辨膜 (Aortenzipfel) ノ分裂ヲ伴フモノナリト云フ。
猶、氏ハ、氏ノ後ノ業績ニヨリテ、次ノ分類ヲ示セリ。



此場合ニ、心臟ハ、多クハ肥大シ、殊ニ右室ニ於テ、著シキ肥大、擴張アリ。

血行障礙ハ、欠損ノ大小、他ノ畸形ノ合併如何ニヨリテ、異リト雖モ、單獨ノ欠損ニ於テハ、障礙ノ著明ナラザルヲアリ。サレド多數ハ靜脈系統ノ鬱積ヲ起スモノナリ。室中隔ノ欠損發生ノ理ハ、諸説アリト雖モ、畢竟、器械的原因ト、純發生史的理由トノ二者ニ歸スルヲ得ベシ。又此ノ場合ニモ、胎生時心内膜炎ノ關係ヲ有スルコアリ。

房中隔ノ欠損、ハ或ハ單獨ニ、又ハ同時ニ、他ノ畸形ト伴ヒテ來リ、最モ屢々卵圓孔ノ開存スルコ多シ。之レヨリモ、ヨリ稀レニハ、卵圓孔膜ノ下部ニ欠損ノ來ル場合ナリ。若シ房中隔全部ノ欠損ヲ來スルハ、一房兩室ノ心臟ヲ形成ス。(Cor biloculare biventriculare.)

コノ房中隔ノ欠損ニハ、單純ノ房中隔欠損、及ビ卵圓孔開存トヲ、合セ稱スルモノアリ、或ハ兩者ヲ區別シテ卵圓孔ノ開存トヲ、獨立トシテ論ズルアリ。後者ノ方、至當ナリ。又或ル學者ハ卵圓孔ノ開存ヲ以テ眞ノ畸形ニ入レ難シト云ヘリ。

C. V. Rokitsansky 氏ハ房中隔ノ欠損ヲ區別シテ二種トナセリ、即チ、

一、第一中隔ノ欠損、Die Defekte des primären Septums.

二、第二中隔ノ欠損、Die Defekte des sekundären Septums.

卵圓孔ノ開存ハ、孔閉鎖ニ關スルニ要件ノ障害ノ何レカニ存スルニヨルモノナリ。即チ、閉鎖裝置ノ欠如セルニ起因スルカ、若シクハ、閉鎖機轉預約ノ欠乏ニヨル。前ノ場合ハ、孔ノ割リ合ニ大ナルカ、又辨膜(卵圓孔閉鎖ニ要スル)ノ餘リ小ナル、或ハ其レノ穿孔セルニヨリ、后ノ場合ハ肺膨脹不全、肺炎ヲ有セルカ、或ハ右心房室間孔、肺動脈口、乃至肺靜脈ノ開口部等ノ狹窄ニヨリ、肺循環ノ營爲ニテ左房ノ充盈不充分ナルニ由レリ。

動脈辨ノ畸形。肺動脈又ハ大動脈口ノ半月狀辨ニ於テ、辨膜ノ數、通常ヨリモ少キコアリ、又ハ多數ナルコアリ、

又辨膜ノ肥厚、癒着ノ存スルコアリ。之ノ畸形ハヤ、マレニ屬ス。

辨膜ノ寡數 (Verminderung der Zahl der Semilunarklappen.) ノ場合ニハ、通常ノ三辨ニ代リテ、二ケノ大ナル辨存シ、剩數 (Vermehrung) ハ、通常肺動脈ニ見ル所ニシテ、四ケ、又ハ五ケ存セル例アリ。而シテ其ノ過剩辨ハ、毎常、其ノ他ノモノヨリ小ナリ。

此ノ寡數ハ、先天性ニ成立スルノミナラズ、マタ後天性ニ、慢性內膜炎ニヨリテ癒着ヲ致スコアリ。

先天性ノ數變常ハ、動脈幹ノ分割異常ニヨルモノトス。

以上各種ニツキテ、文献上ヨリ詳細ニ各其ノ發生機轉、病變、及ビ臨床的所見ヲ記述セバ、興味多キナルモ、冗長ニハタランヲオソレ、唯、一般ヲ記セルニ過ギズ。

第二項、余ノ實驗例、

臨床記 錄

剖檢ノ結果、興味アル所見ノアルアリシヲ以テ、タトヒ、其症狀、モシクハ診斷上ノ確徵ヲ欠ケルモ、乃至ハ生前些ノ症狀ヲ呈セザリシニモセヨ、マヅ其臨床上ノ所見ヲ知ラント欲スルハ、ワレモ、人モ等ク希フ所ナリ。然レモ、本患者ノ既往症及ビ現在病歴ハ、來院當時ヨリ甚シク苦悶ノ狀ニアリ、且ツ入院後、間モナク死亡セルニヨリ、其詳細ハ、之ヲ知ルニ由ナシ。余ハ、内科醫員、及ビ現住地村役場ノ好意ニヨリテ、漸ク、唯、次ノ數者ヲ記シ得ルノミ。其他、緊要ナル事項ノ検査ヲ欠ケルハ、余ノ、頗ル遺憾トスル所ナリ。

患 者

現在住所、富山縣西礪波郡東石黒村大字前田村、

產地 石川縣金澤市鹽屋町

年齡、十七歲 (明治二十一年十一月二日生)

血族ノ關係。實父ハ、患者ノ二三歳ノ頃、患者及ビ妻ヲ殘シテ逃亡シ、爾後行衛不明。其後、生母ニ從ヒテ、故山ヲ去リ佐渡ニ在リシモ、患者十一歳ノ時、母ニ死別セリ。コ、ニ、患者ハ、某氏ニ救ハレ、後、更ニ、某氏ノ親族ナル現住地ニ於テ、養ハル、身トナレリ、斯クノ如クナルヲ以テ、血族ノ關係ハ不明ニ屬ス。

既往病歴。幼少時ノ狀態モ亦スベテ、不明ナリ。唯十二歳、即チ現住地ニ來リシ頃ヨリ、口唇及ビ爪甲ノ青黒キ着色ヲ有セリト云フ。手ヲ使用スルトキハ、常ニ、右手ヲ以テセリ。

(以上ハ、現住地村役場ノ、余ノ委囑ニヨリ調査セラレタルモノニ係ル。)

現在病歴。明治三十七年十二月二十七日、石川縣立金澤病院、胸部内科救恤患者トシテ入院。

其當時ノ主訴ハ、次ノ如シ。

先月三十日頃ヨリ、全身浮腫ヲ來セリ。但シ、其以前ヨリ働作時ニ於テ、胸内苦悶、心悸亢進、眩暈等ヲ發ス。該諸症漸次増悪シ、目下、立業不能ナリ。

本月十三日頃ヨリ、咳嗽、咯痰アリ、間々、血痰ヲ混ズ。盜汗アリ。食欲ハ、存在スルモ、苦悶ノ爲メ攝取スル能ハズ。便通常ノ如シ。

現在症。体格、營養共ニ中等。全身ニ高度ノ浮腫ヲ呈シ、且ツ、著シキ「チアノーゼ」アリ、殊ニ、口唇及ビ爪甲ニ著明。

各指趾ノ末端ハ所謂桴鼓指ノ狀ヲ呈ス。呼吸頗ル困難ノ狀ニアリ。言語マタ多ク發スル能ハズ。

胸部視診上。全心臟ニハタリテ、瀰蔓性ニ、心搏動ヲ見認ム。

觸診上。聲音振顫左右共ニ微弱。左乳線内ニテ、第五肋間ニ、心尖搏動ヲ觸ル。

打診上、肺ノ所見、著變ナシ。心臟ノ右界ハ、右胸骨線ヲヤ、超ヘ、上界ハ、第三肋骨ノ上緣、左界ハ左乳線ニ在リ。而シテ濁音ノ境界ハ、ヤ、基底ヲ下ニシタル三角形ニ、類似セリ。

聽診上。肺ニ於テハ。呼吸音一般ニ幽微ナルノ外、變常ヲ發見スル能ハズ。心臟、各辨口ニ於テ、正音ノ不純ナルト、微弱ナルトノミニシテ得ル所ナシ。

頸動脈ヲ、胸鎖關節上ニテ、聽診スルニ、縮期的雜音ヲ聽ク。

脈搏ハ、左右トモニ、甚ダ小。

腹部ニ於テハ、僅カニ、肝下緣ヲ觸レ得タルノミニテ、其他、特記スベキナシ。

尿検査上。反應酸性、著シキ蛋白ヲ証明スルモ、糖分ヲ証セズ。

診斷。合併性心辨膜病?、心嚢水腫、腎臟炎。

入院後四日ニシテ、全月三十日午後八時、遂ニ、死亡ノ轉歸ヲトレリ。ヨリテ、屍躰ハ、我病理解剖室ニ廻附セラレタリ。

剖檢記錄

翌三十一日午前十時半ヨリ、余ガ執刀ノ下ニ、剖檢ヲ行フ。其所見大畧次ノ如シ。

富山縣西礪波郡東石黒村

○ ○ ○ ○ ○

明治二十一年十一月三日生

第一、 外景検査、

- 一、一男屍、体格、營養トモニ中等、体重五一磅ヲ算ス。
- 二、全身皮色帶紫赤色ニシテ、屍斑ヲ見認メズ。全身一般ニ浮腫様ヲ呈ス。
- 三、屍剛ハ、各關節ニ存ス。
- 四、頭部ニ異常ナシ。顔面殊ニ口唇ハ紫藍色ヲ呈シ、臉、球結膜トモニ、劇シク充血シ、瞳孔ハ右ニ著シク、左ハ中等度ニ散大ス。頸胸部ニ記スベキノ變化ナク、腹部ハ一般ニ膨滿ス。外陰部陰毛ノ發生ナク、肛門ニ變狀ナシ。上下肢ニ於テハ、各指趾末端ノ膨大ト、紫藍色ヲ呈セル爪甲ノ甚シキ彎曲ヲ見ルノ外、手、足背ニヤ、著シキ浮腫アルノミ。背部ニハ、記スベキナシ。

第二、 内景検査、

甲、 胸腹腔開檢、

- 五、式ニ從フテ胸腹軟部ヲ切開スルニ、皮下脂肪ニ富饒シ、筋層ノ發育可良、筋色暗赤褐色ヲ呈ス。皮下ノ血管ハ、何レモ暗色ノ血液ヲ充盈シ、切開ノ際暗色流動性ノ血液夥シク流出ス。
- 腹腔内異常ノ内容ナク、内臓ノ位置ニモ異變ナク、マタ臓器間ノ癒着ナシ。胃及腸管ハ瓦斯ヲ以テ膨滿シ、且ツ腸管表面ノ血管ハ何レモ充盈甚シ。腹壁。腹膜面ハ淡紅滑澤ナリ。
- 横隔膜ノ高サハ、左第五肋骨、右第四肋間ニ適ス。

其一、 胸腔内臓器、

六、胸腔ヲ開檢スルニ、前縱隔洞ノ淋巴腺ニ變化ヲ見認メズ。胸腺ノ痕跡ヲ發見セズ。左胸腔内ニハ僅微ノ黃色稀薄液ヲ含有ス。右胸腔内ニハ異常ノ内容ナク、上葉ノ一部硬ク胸壁ト癒着ス。

七、心嚢内ニハ、淡黃色ノ少シク溷濁セル稀薄液一四〇、〇立仙ヲ含有シ、内面蒼白滑澤、前壁ニ少許ノ点狀出血ヲ認ム。

八、……心臓ノ記載ハ後文「心臓ノ所見」ナル項ニ讓ル。

九、左肺表面ノ色、帶紫藍色ヲ呈シ、其形著シク扁平トナリ、其下后緣退縮シテ后面中央ニ横ニ走リシ辨狀ノ突起ヲ形成シ爲メニ肺臓ノ基底面ヲ存セズ。尙又其前上緣ハ舌狀ニ伸展セラル。葉間截痕ハ大部欠損セリ。又下葉ノ内下隅ニ小指頭大ノ白色癥痕一ヶ存ス。按壓スルニ嗶發ヲ感ズルコト少ク、癥痕ノ部ハ稍々硬シ。斷面血量ニトミ、壓スルニ泡沫液ノ流出スルヲ見ズ。氣管支ノ内面暗赤色ヲ呈シ滑澤ナリ。

右肺ニハ上中葉間ニ輕キ癒着ヲ存スルノミニシテ畸形ナク、又其表面、斷面ノ性状左肺ニ全ジ。氣管支内面マタ然リ。両肺トモ氣管支周圍ノ淋巴腺ニ變化ヲ見認メズ。

十、大動脈弓ヨリ起レル脈管中、右總頸動脈及右鎖骨下動脈ハ各別個ニ直チニ大動脈弓ヨリ起リ、左ニ於テ却ツテ無名動脈ニ相當スル一幹ヲ以テ起リ、之レヨリ分岐シテ、總頸、鎖骨下ノ二動脈トナル。

大動脈峽部ハ弓部ニ比較シテヤ、著シク狹窄シ、其以下胸部大動脈ノ太サ之ノ部ニ全一ナリ。ポタリー氏管ノ痕跡ヲ見認メズ。胸部大動脈幹、并ニ大靜脈幹、氣管、及ビ食道等ノ經過ニ變常ヲ發見セズ。

其二、 腹腔内臟器、

十一、脾臓ノ表面帶紫褐色ヲ呈シ肋骨穹隆面ニ一ヶノ小指頭壓痕大ノ白色癥痕アリ。前緣ノ截痕ハ數多ク、且ツ著

シク深シ。脾門ノ后方ニ雀卵大ノ副脾一ヶ存在シ、本來ノ脾トハ脾門ニ出入セル結締織ニヨリテ連絡シ、特別ノ血管ヲ具フ。

脾ノ大サ、一四、八一八、五―三、八仙。質硬ク、断面血量ニ富ミ、脾髓、脾材ノ別明ヲカナリ。重量二三〇、〇瓦。

十二、左輸尿管ニ變常ナシ。左腎ノ莢膜剝離シ難ク、大サ一〇、五―五、八一四、〇仙述。断面血量ニトシ、皮質、髓質ノ別不明。重量、一六〇、〇瓦。右輸尿管ニモ亦變狀ナシ。右腎莢膜モ亦剝離シ難ク。大サ、一〇、五―六、五―四、〇仙迷。断面ノ性狀左腎ニ全シ。重量、一七五、〇瓦。

十三、膀胱内ニハ稍々溷濁セル黃色ノ尿少量ヲ含有シ、内面蒼白滑澤ナリ。

十四、十二指腸内ニハ、赤褐色ノ稀薄液多量ヲ存シ、粘膜劇シク暗赤色ヲ呈ス。輸胆管ハヨク開通セリ。

十五、胃内ニハ、汚穢帶褐色ノ粥樣食片多量ヲ含有シ、且ツ蛔虫一條ヲ存セリ。粘膜帶赤褐色ヲ呈シ、且ツ浮腫樣トナリ、粘膜下ノ血管著シク怒張ス。

十六、肝臓ノ表面、帶紫褐色。滑澤ニシテ、質ヤ、硬シ。大サ二七、〇―一二、〇―一六、〇仙迷。断面血量ニトミ、肉豈蕈狀ヲ呈ス。

胆嚢内ニハ、暗色ノ胆汁多量ヲ含存シ、内面ハ、帶赤黃色、滑澤ナリ。

ヂストマ虫体ヲ發見セズ。

十六、腸間膜腺變狀ナシ。小腸及盲腸トモニ粘膜暗赤色ヲ呈シ、一面ニ粟粒大濾胞ノ腫起セルヲ認ム。

十七、腹膜後ノ淋巴腺變狀ナシ。

十八、腹部大動脈及腸骨動脈、此等靜脈ニ變常ノ存在ヲ見認メズ。

以上ニテ剖檢ヲ終ル、干時正午。

解剖的診斷、（心臟ハ除ク）、

全身輕度ノ浮腫、全身紫藍色。

心囊水腫。心囊内面ノ点狀出血。

左肺畸形。左葉下葉表面ノ癍痕。右肺上葉ノ局部肋膜痊着。両肺硬變。

大動弓部動脈幹起始變常。大動脈峽部狹窄。

鬱血脾。脾表面癍痕。脾前緣截痕ノ變常。副脾（一個）。

左右慢性腎臟炎。

胃及十二指腸鬱血性加多兒。胃内蛔虫寄生。

鬱血性肉荳蔻肝。

小腸及盲腸濾胞性腸炎。

顯微鏡的診斷、（其所見ハ畧ス）、

肺、肺膨脹不全。

腎、慢性實質性腎臟炎。

腸、臚胞性腸炎。

* * * * *

* * * * *

心臟ノ所見、

心臟ノ大サハ、本屍手拳大ノ約二倍余ニシテ、其後剖檢ニヨリテ得タル、恰カモ全年齡、即チ十七歳ノ男子ニテ、肺、膈、其他ノ結核ニテ斃レ、心筋色ノヤ、褐色ヲオブルコ多キノミニシテ、他ハ通常ナル心臟ト、對比スルニ、大凡三倍大ヲ有セリ。形狀ハ、通常ヨリモ、著シク球圓ニ近ク、即チ横經ノ増加ハ縱經ニ於ケルヨリモ著シキナリ。而シテ、心尖ハ鈍ク、且ツ右室ニヨリテ形成セラル。冠狀靜脈ハ怒張シ、外膜下ノ脂肪沈着少シク多シ。觸ルニ、兩室トモ著シク硬固、シカモ左ヨリモ右室ニ於テ甚シ。

右心内ニハ、暗色ノ流動血多量ヲ含有シ、房室間孔三指ヲ通ズ。左心内ニモ亦、全様ノ血液多量ヲ含有シ、房室間孔四指ヲ通ズルコ容易ナリ。

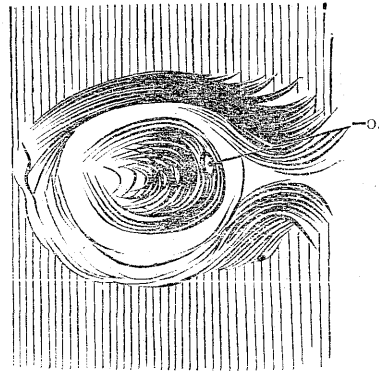
心臟ヲ摘出シテ、大動脈及ヒ肺動脈ノ斷端ヨリ水ヲ注グニ、肺動脈半月狀辨ハ、閉鎖スルモ、大動脈ニ於テハ、直ニ水ノ漏ル、ヲ見ル。(精檢セシモ、大ナル冠狀ニ動脈ノ切斷ヲ發見セザリキ。)

左右ノ兩房ヲ比較スルニ、左ハ右ヨリモ甚ダ小ニシテ、兩室ヲ對比スルニ右室ハ左室ヨリモ大ナリ。而シテ後面ニ於テ、右房ト右室トノ境界、即チ冠狀溝ハ著シク斜メニシテ右緣ニ近ヅクニ從フテ益々上レリ。

右房ニ於テ、心耳ノ發育比較の少ク、殆ンド耳ヲ形成セズト云フモ可ナリ。而シテ其心耳ノ膨出スベキ部ハ、比較的太キ大動脈ニヨリテ占居セラレタリ。房ノ内腔ヲ檢スルニ、房腔ハ擴張シ、壁ハ一般ニ肥厚ス。前壁ノ橢狀筋ハ著シク發育シ、恰カモ肉柱ノ觀ヲ呈セリ。内膜ハ一般ニ少シク溷濁ス。房中隔ニ於テ、卵圓孔ノ閉鎖ハ、厚キ膜ニヨリテ殆ンド完成セラレ、其周緣ハ、前極ニ著シキモ、後極ニヤ、不明ナル輪堤ヲナス。輪堤ノ内徑ハ前後一、五仙、上下一、三仙迷アリ。而シテ該輪ノ前方、輪堤ニ接シテ細消息子ヲ挿入シ得ベキ左房ニ通ゼル一孔アリ。(第三

圖〇)、左房ニ於ケル該孔ノ開口部ハ、右房ヨリモ少シク前方ニアルヲ以テ、孔ハ少シク斜メノ位置ヲトレリ。上行大静脈ノ房開口部ノ下部ニハ、兩側ニ辨狀ノ隆起アリテ、開口部ヲ界セリ。

第三圖



右房ヨリ見たル卵圓孔ノ部分

右室ノ前壁ヲ式ニ從ツテ截開セントシ、膈缺ヲ縱切開ノ上三分ノ一部ヨリ、

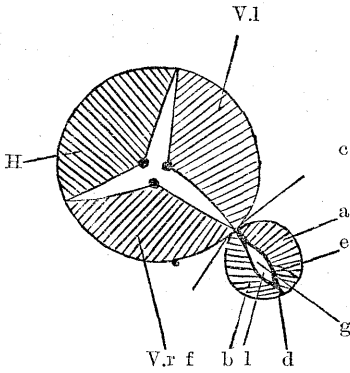
之レニ直角ニ、肺動脈ニ向フテ挿入スルニ、肺動脈ニ達セズシテ、却ツテ大動脈ニ至レリ。而シテ、肺動脈ノ末梢斷端ヨリ、中等度ノ太サヲ有スル消息子ヲ挿入スルニ、辛ウジテ右室内腔ニ達スルコトヲ得タリ。此ノ消息子ノ經過ニヨリテ見ルニ、肺動脈圓錐部ハ、通常ニ於ケルヨリモ、甚シク下方ニ在リ、殊ニ、圓錐部ノ基底ニ於テ著シク下レリ。而シテ此ノ消息子ニ沿フテ切開ヲ加ヘ、右室ヲ檢スルニ、右室内腔ハ擴張シ、且ツ其壁ハ著シク肥大シ、肉柱、乳嘴筋ハ、可良ノ發育ヲナス。内膜、一般ニ溷濁、肥厚シ、殊ニ肉柱間ニハ、

白色臙樣ヲ呈スル内膜ノ、相互間ニ、ワタレルヲ見ル。三尖辨ハ、辨膜肥厚シ、其面粗ナリ。前及ビ、左方辨膜ノ起根部ハ、通常ノ如キ纖維輪ヲ形成スルコトナク、漸次的移行ヲ呈ス。臙索ハ、直ニ室壁ヨリ起リテ、辨膜ニ至レルモノ少ナカラズ。臙索自己ニハ、少シク肥厚アリ。

肺動脈圓錐部ハ、タゞニ其經過ノ下降セルノミナラズ、高度ノ狹窄ヲ呈シ、恰カモ室ノ前壁内ニ在ルモノ、如ク、其基底ニテハ、殊ニ甚シキ狹窄ヲ呈スルヲ以テ、本來ノ室腔トハ、全ク別箇ノ觀アリ、所謂過剩室、又ハ、第三室、Überzählige Kammer od. dritte Kammer. ヲナセリ。而シテ、此ノ過剩室ノ入口、即チ肺動脈圓錐部ノ基底部ニ於ケル著明ノ狹窄ハ、肉質壁ニヨル狹窄ノ外、上下ニ走レル前後二ケノ辨狀物ノ存在ニヨリテ、益々其度ヲ増加セラ

レ、其辨間、漸ク中等度ノ消息子ヲ通シ、得ベキダケノ孔ヲ有セリ。此ノ辨狀物ノ本性、由來如何ハ、後文ニ述ブルトシ、其ノ性狀ヲ記セバ、不正ナル半月狀ヲナシ、長サ一、〇仙迷、幅〇、二一〇三仙迷、厚サ約〇、一仙迷ヲ有ス。起根部ハ、其ノ部内膜ト、境界ナクシテ連續シ、相互對向縁ハ、不正ニシテ、中部ニ一小孔ヲ形成シ、他ハ輕ク癒着ス。其ノ色帶黃白色ヲ呈シ、不透明ニシテ、柔軟性ニ乏シク、シカモ硬固、恰カモ吾人ガ、解屍ノ際、屢々實見スル、大動脈辨ヲ侵襲シタル慢性心内膜炎ニ於ケル、辨膜ノ狀ヲ呈ス。而シテ其面殊ニ、過剰室腔ニ面セル側、及ビ邊緣ニハ、白色乃至帶赤色、粟粒大ノ疣狀小結節多數ヲ生ゼリ。過剰室ノ内腔ハ、前後ニ壓平セラレ、底部及ビ尖端部ニテハ、スベテヨリ狭窄セラル。腔ノ廣サハ、肺動脈半月狀辨起根部ヨリ、上記辨狀物ニ至ル長徑三、〇仙迷、橫徑、即チ上下徑、二、〇仙迷、厚徑、即チ前後徑約一、〇仙迷ヲ有ス。而シテ内面ハ、スベテ白色臙樣ヲ呈シ、著シク肥厚セル内膜ニヨリテ、被覆セラレタリ。

第四圖



Robitzsky氏
ニヨリテ大動
脈及肺動脈辨
口ノ辨膜ヲ示
セル想像圖

ヨリ長ク相癒着シ、其他ハ相接着スルノミ。a 辨ノ竇ハ、通常ヨリ淺シト雖モ、猶、タツシエンヲ呈セリ。其遊離

肺動脈辨口ハ、甚シク狹隘トナリ、過剰室腔トハ、恰カモ、コノ部ニテ急頓ニ、絞レタルガ如キ觀アリ。半月狀辨ハ二ケニシテ、(第四圖 a、b) 其ノ位置、a 辨ハ肺動脈ノ前左方、b 辨ハ後右方ニ存在シ、大動脈辨ニ對シテハ、大動脈ノ V.R 辨ト V.I 辨トノ接着点 f ト、肺動脈ノ二辨ガ相接着スル部 c トハ、恰カモ相對向シタル部ニ在リ。而シテ、a 辨ハ、b 辨ヨリモ廣ク、兩辨間ニハ、g ナル、中等度ノ太サノ消息子ヲ通シ得ラル、孔ヲ呈シ、c ニテハ僅カニ、d ニテハ

緣ハヤ、肥厚シ、「アランチー」氏小結節ヲ欠ケルモ、其緣ノ中央ヨリ少シク前方ニ於テ、極メテ僅カニ、ヨリ肥厚セル部アリ、(1)、之レヨリ前管壁ニ走レル一ノ細隆線ヲ見ル。(e)、而シテ此辨ノ過剩室ニ向ヘル面ニテ、1ヨリ、通常見ルガ如キ小結節ヨリ起リ辨膜ノ起根部ニ放散狀ニ至レル隆線ヲ見認メズ。b辨ハ、其囊狀ヲ呈スル1、a辨ヨリモ淺ク、又、其遊離緣ニハ、全ジク「アランチー」氏小結節ヲ有セズ。dニテ兩辨ノ相癒着セル部ニ、動脈腔ニ向ヒテ隆起セル小結節狀ヲ示セリ。而シテ兩辨膜トモニ、溷濁ヲ呈シ、少シク肥厚ス。

肺動脈ハ、上記ノ如ク其脈管口ニテ高度ノ狹窄アルモ、ソレヨリハ囊狀ニ擴張シ、起根部ヨリ二、八仙迷ヲ經過セル後、左右ノ肺動脈枝ニ分岐ス。此ノ枝ニ變常ナシ。脈管内膜ニハ、變常ノ見認ムベキナキモ、管壁ハ非薄ナリ。右室ヨリ見タル中隔壁。下部肉質部ニハ、著明ニ肥大セル肉柱ノ走行ヲ見ルノ外、通常ニ於ケルガ如シ。通常ハ、中隔壁ノ上部ノ前半部分ハ、肺動脈圓錐部ヨリ形成セラル、ニ、異リテ、肺動脈圓錐部壁ハ、殆ンド中隔ノ形成ニ關與セズ、全ク隔離シ、三尖辨ノ左辨膜ニ對向セル中隔ニヨリテ營マル。而シテ此ノ部分即チ前室中隔部ニハ、上方ハ大動脈ノ起根部ニ接シテ、前方ハ中隔壁ノ僅カノ肉質ヲ殘シテ、一ノ大ナル中隔壁欠損ヲ呈シ、之レニヨリテ、兩室腔ノ交通ヲ來セリ。其欠損ハ、殆ンド正圓形ニテ、大サ凡ソ、二錢銅貨大、下半部ノ緣ハ、中隔ノ筋肉質、恰カモ半月狀ニ終リ、此ノ部ニ、白色腱様ノ著シク纖維様ナル内膜ヲ附シ、后緣ヨリハ、三尖辨内方辨膜ノ室面ニ、停止セル腱索三四條起始ス。大動脈ト、此ノ欠損トノ關係ヲ見ルニ、此ノ交通孔ニヨリテ、右室ヨリ直ニ、左室、殊ニ、大動脈管腔ニ至リ、孔ノ上緣ハ、密ニ、大動脈ノ起始ニ接シ、右室内膜ハ、直ニ、大動脈起根部ノ内膜ニ連續セルニヨリテ、大動脈管腔ノ一部ハ、右室ニ關係アルガ如キ觀ヲ呈スト雖モ、精細ニ檢スルトキハ、孔ノ上緣ト、下緣トハ一平面上ニ存シ、決シテ右室ヨリ起レルニアラズ、又所謂大動脈ノ兩室ニratherセルニモアラザルヲ知ル。

左房腔ハ、ヤ、擴張シ、内膜一般ニ少シク溷濁アリ。房中隔ニテハ、上記卵圓孔部ノ一小孔ノ開通アルノミ、他ニ變常ナシ。卵圓孔部ハ、通常見ルガ如ク、左房腔ニ向フテ少シク膨隆ヲ呈シ、殊ニ前部ニ著シク、コ、ニ開通孔存セリ。各脈管口ニ異常ヲ發見セズ。

左室ニモ、壁、及ビ乳嘴筋、肉柱ノ肥大ヲ表シ、通常ヨリモ數多キ肉柱アリ、室腔著シク擴張ス。コ、ニ特記セザルベカラザルハ、壁及ビ腔ノ右室ニ於ケルトノ對比ナリ。即チ壁ノ厚徑ハ、右室ハ左室ヨリモ甚ダヨリ厚ク、室腔ハ左室ハ右室ヨリモ大トナレリ。内膜ハ、一般ニ溷濁シ、且ツ壁厚ス、殊ニ肉柱間ニ於テハ、臙樣ヲ呈セリ。僧帽瓣ハ、瓣膜ノ少シク溷濁、粗糙ナルノ外、特記スベキナシ。大動脈瓣膜ハ邊縁ヤ、肥厚ヲ呈スルノミニテ、他ハ正常ナリ。大動脈起根部ニハ、多數ノ黃色斑ヲ見認ム。瓣膜口、及ビ上行大動脈管腔トモニ、著シキ擴張アリ。壁モ亦厚徑ノ増加ヲ呈ス。而シテ上行大動脈ノ經過ハ、起始部ヨリ急ニ右方ニ彎曲シ、起始部ト上行大動脈管トハ一ノ角度ヲナシテ走レリ。而シテ上行大動脈ハ、上大靜脈ノ右房開口部ノ前ニ位シ、右房前壁ノ一部ハ、此ノ異常ニ太キ脈管ニヨリテ占メラレ、心耳ヲ形成セズ。

左室ヨリ見タル中隔壁、下部中隔壁ニ就キテハ、特ニ記スベキナキモ、右室トノ交通孔ニツキテ、猶詳細ナル觀察ヲナスニ、孔ハ、大動脈半月狀瓣ノ前右、及ビ后瓣膜ノ部ニ相當セル中隔壁欠損ニシテ、之レニヨリテ右室三尖瓣左瓣膜ノ一部ヲ窺ヒ得ベシ。又下部ノ縁ハ、臙樣ナル内膜ヲ附セリ。

肺動脈ト、大動脈ノ經過方向ノ關係ヲ檢スルニ、兩動脈管ノ交叉角ハ、通常ニ於ケルヨリモ大ナリ。一部ハ、肺動脈ノ大動脈ニ比シテ著シク細キニヨルアランモ、肺動脈圓錐部ガヨリ下方ニアリテスラ、斯クノ如クナルヲ以テ見レバ、マタ、一ハ、上行大動脈管經過ノ右移 (Rechtsstellung) ニ原由スル所アルベシ。

冠狀動脈ノ起始ハ、大動脈半月狀瓣ノ前方、及ビ左方辨膜ノ「ヴァルザルヴァ」氏竇ノ中央ニテ、恰カモ辨膜ノ邊緣ニテ被ル、位置ニアリ。冠狀靜脈ノ終末ハ、右房ニテ、后方中隔壁ト后壁房トノ會合部ノ下部ニ在リ此ノ部ノ辨膜ハ、通常見ル所ノ如シ。心冠動靜脈ノ經過ニ、變常ヲ發見セズ。

心筋ノ色、赤褐色ヲ呈ス。

測定。

心臟ノ長徑、

一四、五^{仙迷}

心臟ノ最大幅徑、

一二、〇

心臟ノ最大厚徑、

七、六

基底部ニ於ケル

兩室ノ周徑、

三〇、〇

右室ノ周徑、

二四、六

左室ノ周徑、

二〇、〇

心尖部ニ於ケル

兩室ノ周徑、

一二、〇

右室ノ周徑、

一八、〇

左室ノ周徑、

一五、〇

右房壁ノ厚徑、

〇、三一〇、四一〇、六

右室壁ノ厚徑、

一、基部部、

二、二

二、中央部、

二、〇

三、心尖部、

一、八

左房壁ノ厚徑、

〇、二—〇、四

左室壁ノ厚徑、

一、基部部、

一、四

二、中央部、

一、五

三、心尖部、

〇、四—一、〇

肺動脈ノ内周徑(起始部ニ於テ)、

三、〇

大動脈ノ内周徑(起始部ニ於テ)、

六、四

肺動脈管壁ノ厚徑、

〇、〇七

大動脈管壁ノ厚徑、

〇、二五

右室腔ノ三尖辨口ヨリ心尖迄ノ高徑、

七、五

左室腔ノ心尖ヨリ大動脈起始部迄ノ高徑、

九、〇

室中隔欠損部ノ直徑、

一、五

心臟ノ全重量、

四八六、〇五

此等各測定數ヲ以テ、全性、全年齡ノ心臟ニ於ケル平均數ニ、相對照スルコト、マタ必要ナリトス。然レモ、余ノ寡聞ナル、未ダ、我邦ニ於ケル此種ノ統計ニ接スル能ハズ。外國ニ於ケル統計モ、マタ上記各部ノ測定平均數ヲ得ズ。サレバ、殆ンド正常ト見認メラルベキ我邦人、全性、全年齡ノ心臟ニツキテ、測定數ヲアゲ比較ヲ試ミン。

心臟ノ長徑、	一〇、八	仙迷
心臟ノ最大幅徑、	八、〇	
心臟ノ最大厚徑、	五、〇	
基部部ニ於ケル		
一、兩室ノ周徑、	二〇、〇	
二、右室ノ周徑、	一八、〇	
三、左室ノ周徑、	一六、〇	
心尖部ニ於ケル		
一、兩室ノ周徑、	一三、七	
二、右室ノ周徑、	七、二	
三、左室ノ周徑、	一〇、二	
右房壁ノ厚徑、	〇、一〇、二一〇、三	
右室壁ノ厚徑、		
一、基部部、	〇、六	
二、中央部、	〇、六	
三、心尖部、	〇、三	
左房壁ノ厚徑、	〇、一〇、二	
左室壁ノ厚徑、		
一、基部部、	一、〇	
二、中央部、	一、三	
三、心尖部、	〇、三—〇、六	

肺動脈ノ内周徑(起始部ニ於ケル) 五、三
 大動脈ノ内周徑(起始部ニ於ケル) 五、二
 肺動脈管壁ノ厚徑、 〇、一
 大動脈管壁ノ厚徑、 〇、一
 右室腔ノ三尖瓣口ヨリ心尖迄ノ高徑、 四、七
 左室腔ノ心尖ヨリ大動脈起始部迄ノ高徑、 六、七
 心臟ノ全重量、 二二〇、〇瓦

*由來管口ノ周徑ハ、各其所屬ノ房、室腔ノ廣サニ關係スルモノナリ。故ニ此ノ場合ニ於テ、畸形心ノ對照心ニ於ケル室腔ノ増加ノ割合ヨリモ、各尿管口周徑ノ増加ノ割合ガ、比較的少キノ感アリト雖モ、之レヲ以テ、直ニ、其管口ノ狹窄ナシト云フ能ハザハナリ

全性、全年齡屍ノ心臟全重量平均數トノ比較。

Miller 氏ノ統計、(Stank 氏ノ論文ニヨル)

十六—二十歳男子

心臟全重量、 二〇九、〇瓦

Thoma 氏ノ統計、

十七歳男子

心臟全重量、 二三三、七瓦

以上記載シタル心臟ノ所見ヲ、摘記スレバ、左ノ如シ。

- A. 全心臟ノ肥大、擴張。全心形狀、球圓ニ近似ズ。心尖ハ右室ニテ占メ、且ツ鈍。左右心ハ多量ノ流動血ヲ充ス。右房室間孔ニ三指、左房室間孔ニハ、四指ヲ通ズ。大動脈半月狀瓣ノ閉鎖完全ナラズ。右房ハ左房ヨリ、右室ハ左室ヨリ大。
- B. 右房ノ肥大、擴張。右心耳ヲ形成セズ。內膜溷濁。卵圓孔ハ完全ニ閉鎖セラレズ、一小孔ヲ殘ス。
- C. 右室擴張、著シキ肥大、肉柱、乳嘴筋肥大。內膜溷濁肥厚。三尖瓣肥厚、粗纒。腱索ノ肥厚。
- D. 肺動脈圓錐部ノ經過下降、高度ノ狹窄。圓錐部ハ前室壁内ニ在リテ、過剩室ヲ形成ス。圓錐部基底ニ於ケルニケノ辨狀隆起、此部ノ疣狀贅生物。過剩室腔ノ白色臙樣內膜。
- E. 肺動脈辨口狹窄。半月狀辨二個、前左、及ビ後右辨、辨膜「アランチー」氏結節欠如、辨膜溷濁。半月狀辨閉鎖完全。肺動脈幹正常。
- 室中隔上部、所謂前室中隔全部ノ欠損。欠損ハ殆ンド圓形、緣滑澤。
- F. 左房肥大擴張。內膜溷濁。
- G. 左室肥大、著シキ擴張、肉柱、乳嘴筋肥大。內膜溷濁、肥厚。僧帽辨溷濁。大動脈辨邊緣肥厚。大動脈辨口、管腔擴張。管壁肥厚、內膜ノ黃色斑。
- H. 上行大動脈經過ノ右移。
- I. 心冠動靜脈正常。
- J. 心筋色赤褐。

此等所見ニツキテノ説明ハ、後項ニ於テ、詳細論ズル所アルベシ。

第三項、原因、

先天性心臟病ノ直接ノ原因ハ、蓋シ尙不明ニ屬スト謂ハザルベカラズ。從來之レガ原因トシテ擧ゲラレタルモノ數多アリト雖モ、未ダ之レヲ以テスベテノ場合ニ適合セシムル能ハザルナリ。今其ノ二三ニ就キテ述ベンニ、或ハ妊娠間ニ起リタル母ノ外傷及精神感動ヲ擧ゲ、或ハ妊娠間ニ際シタル關節痲痺質斯ニ歸シ、マタ梅毒、血族結婚ヲ以テ其發生ニ關係アリトナス。遺傳的關係ノ存在ヲ説クモノアリ。之レヲ症例ニ求ムルニ、Eichhorst氏ハ、著書ニ、自己ノ經驗ニ係ハル一例ヲ記載セリ、即チ或ル男子ト其前妻トノ間ニ誕生シタル一兒、并ニ其後妻ニ誕生シタル一兒モ何レモ心臟病ヲ患ヘタリト云フ。マタ Richard Schmaltz氏ノ報告シタル一例ハ、父方ノ祖母及父ハ心臟辨膜病ヲ患ヘ、其ノ一兒モ亦先天性心臟病ヲ有セリト云フ、

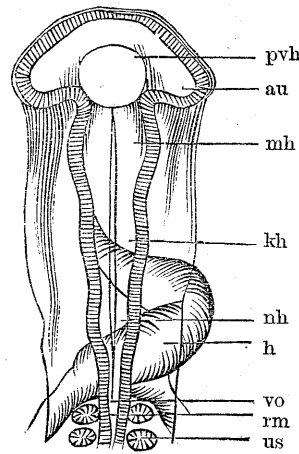
往昔胎生時内膜炎ハ右室ニノミ發スルモノナリト誤信セリ。然レモ獨リ右室ノミニ限ラズ、ヨリマレナレモ左室ニモ亦起スヤアリ。カク右心ニ多キ理由トシテ、胎生時ニ於ケル右心ノ血液ハ生後ニ於ケルト異ニシテ、臍腸靜脈ヨリ來レル動脈血ナルヲ以テ、比較的多クノ發炎的物質ヲ含ムニヨルト説クモノアリ。

第四項、發生學、

心臟ノ畸形發生ニ關スル學說ノ梗概ヲ擧グルニサキダチ、余ハ、コノニ、心臟發生史 *Entwicklungsgeschichte des Herzens* ノ大畧、殊ニ余ノ例ニ關係アル点ニツキ、少シク述ブル所アラン。是レ、心臟ノ發生史ハ、多クノ成書ニ記載セラル、ナルモ、現今多數學者ノ是認スル先天性心畸形ノ學說ヲ解釋セントセバ、マヅ、發生史ニサカノボラザルベカラザルヲ以テ、説明ノ順序上、記述ノ必要アレバナリ。

胎生ノ初期ニ於テ、心臟ハ頸腔 Halsöhle 内ニ存スル一ノ眞直ナル管ニシテ、之ヲ前後二部ニ區別ス。前部、即チ頭端ニ近ヨレル部分ヲ心室部 Kammerteil. ト云ヒ、之レヨリ二條ノ原始大動脈弓 Primitive Aortenbogen. 起始シ、

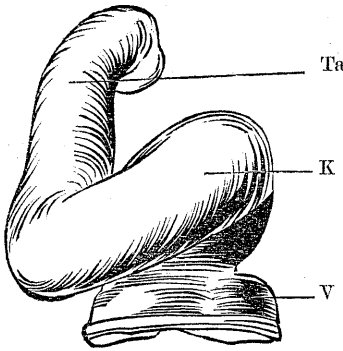
第五圖



五十八時間チ經タル鶏胎ノ頭部チ上面ヨリ見タル圖、
四十倍擴大、Mihalovich 氏ニヨル、
Pvh. 第一前腦胞、
Mh. 中腦胞、
Kh. 小腦原基、
Nh. 後腦、
H. 眼胞、
Vo. 心臟、
Us. 臍腹靜脈、
Rm. 原節、
脊髓、

後部ハ前房部 Vorhofsteil. ト稱シ、二條ノ臍腸靜脈 Venae omphalo-mesaraicae. 之レニ連レリ。而シテ此ノ眞直ナル管ハ、甚シク縱徑ノ發育ヲナシ、体ノ發育ヨリモ、著シキ超過ヲナス爲メ、頸腔ニ存スル余地ナク、コ、ニ漸次屈曲ヲ致スベシ。

第六圖



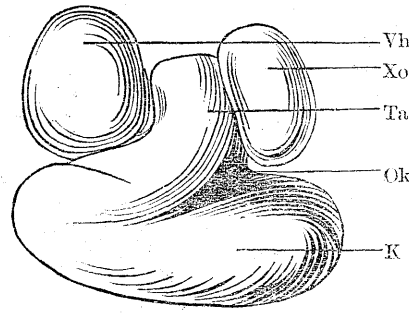
身長二、一五密迷チ有スル
人胎ノ心臟、
Hs 氏ニヨル、
K. 心室部、
Ta. 動脈幹部、
V. S 字形ニ彎曲シタル心
臟管ノ脈靜端、

ニハ一ノ縱溝ヲ生ジテ左右ニ區別ス。之ノ溝ヲ室間溝 Sulcus interventricularis. ト云フ。又前房ハ、正中部及ビ左

之ノ屈曲ハS字形ニシテ、前部ハ右前方ニ、后部ハ左後方ニ向ヘリ。此際、三部ヲ區別ス、即チ動脈幹、Truncus arteriosus. 心室 Kammer. 及ビ前房 Vorhof. 是レナリ。而シテ室部ト房部トノ界ハ、ヤ、狹窄シ、内部ヨリ見ルキハ、其ノ部ハ細管狀ヲナセリ。之レヲ心耳管 Canalis auricularis. Ohrkanal. ト云フ。次ノ時期ニ至レバ、管ハ捻轉シテ馬蹄鐵形トナリ、更ニ進メバ、馬蹄鐵ノ両脚ハ互ニ接近シテ、其一脚タル前房ハ他脚即チ大動脈ノ後方ニ來ル。而シテ心室ノ部

右ノ側部ヨリ形成セラレ、其正中部ヲ前房竇、左右ノ側部ヲ心耳ト稱ス。

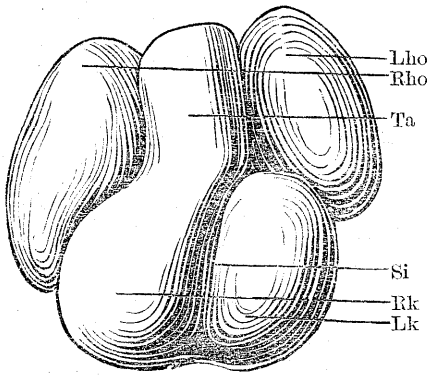
圖七第



項長四、三密迷チ有スル人胎ノ心臟 His 氏ニヨル

- K. 心室、
- Ta 動脈幹、
- Ok. 心耳管、
- Vh. 前房、
- Ho. 心耳、

圖八第



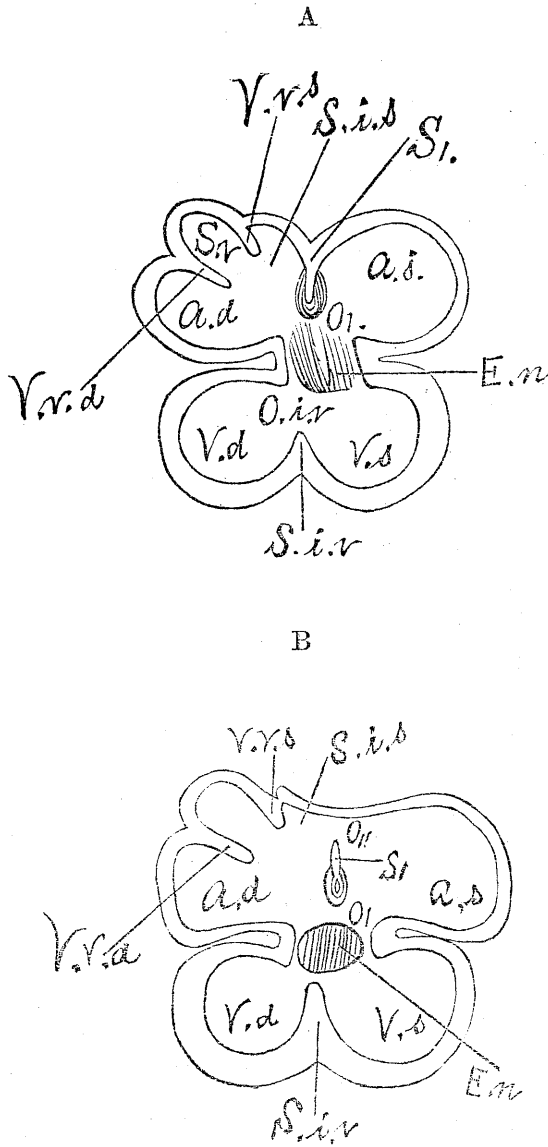
第五週ノ人胎、心臟、His 氏ニヨル

- Rk. 右室、
- Lk. 左室、
- Si. 室間孔、
- Ta. 動脈幹、
- Lho. 左心耳、
- Rho. 右心耳、

斯ノ如ク、心臟外部ニ於テ、種々ノ變化表ハル、ト共ニ、心臟内部ニ於テモ、變化ヲ起スモノナリ。

房中隔ノ形成、心臟管ノ最モ大ナル、且ツ廣キ部分即チ房ニ就キテ人類ニテハ、第四週ニ於テ、既ニ左右兩半部ノ分割、Sonderung. ヲ見認ムベシ。即チ房ノ後上壁ニ於テ、直角ノ方向ニ内腔ニ向ヘル隆起ヲ生ズ。是レ房中隔ノ erste Andeutung. ナリトス。而シテ各兩半部ハ種々ノ靜脈幹ヲトレリ。右部ニ於テハ、臍腸靜脈開口ス、然レモ之レハ直接ニアラズ、且ツ二條ガ各別箇ニ開口セズシテ、先ヅ心臟ノ近部ニ於テ互ニ大ナル一ノ靜脈竇 Sinus venosus. ニ結合シテ、之ノ部ニ開口セルナリ。之ノ靜脈竇ハ、房ニ接シテ存シ、房トノ交通ハ、右房後壁ニ存スル廣キ開口ニヨリテナリ、開口部ノ左右ニ、各一ケノ靜脈瓣 Valvula venosa dextra et sinistra. ヲ具フ。左半部ニテハ、房中隔ノ近部ニ於テ房壁ヲ斜メノ方向ニ貫通シテ一條ノ血管開口ス。之レハ、各二枝宛、兩肺ヨリ來レル四條ノ枝ガ房外部ニ於テ結合セルモノニシテ、肺靜脈ナリ。而

第九圖



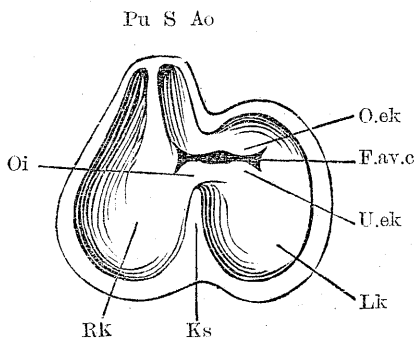
シテ次第ニ其發育ノ歩ヲ進ムルニ從フテ、房中隔ハ、上方ヨリ下方ニ來リ心耳管ノ中部ヲ占ムルニ至ル。茲ニ於テ、中隔ノ上部ニ於テ、后ニ卵圓孔タルベキ一孔ヲ殘テ、全ク區劃セラレタルニケノ左右房トナレリ。室中隔ノ形成、房ニ於ケル中隔形成ヲ起スト相前後シテ、室ニ於テモ、中隔ノ形成始マル。第一ヶ月ノ終期ニ、室

壁甚シク肥厚シ、肉柱ハ室ノ内腔ニ突出シテ互ニ結合シ、恰カモ海綿様ノ外觀ヲ呈ス。而シテ多數ノ肉柱間ノ裂隙ハ、之ノ狹メラレタル室腔ト連絡シテ血液ヲ流通セシム。然ルニ外表ニ於テ室間溝トシテ表ハレタル部分ニ於テハ、室壁ノ筋肉殊ニ肥厚シテ内方ニ突出シタル半月狀ノ皺襞ヲ形成ス。是レ即チ室中隔ノ原基ナリ、而シテ其ノ隆起ノ

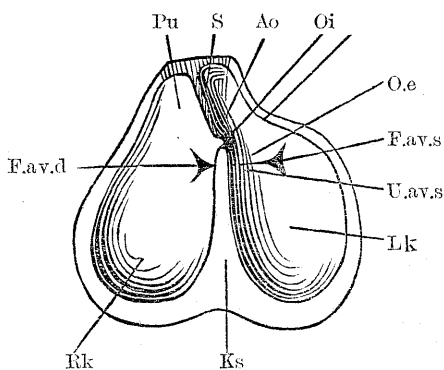
管ニ迄至レルキハ、之レト中隔ノ遊離セル下縁ト癒合ヲ營ム。之レニヨリテ、房室間口ハ左右ニケノ孔ニ分タレ、同時ニモト孔口ヲ限界シタリシ背側、及ビ腹側ノ心内膜隆起ハ各其中部ニ於テ切半セラルベシ。カクシテ背側ノ部塊ハ對側ノ一致スル塊ト癒合シテ、コ、ニ房中隔ノ下縁ニハ二ツノ新タナル隆起トナリテ表ハル。而シテ其各右及左ノ房室間孔ニ突隆シ、后ニ房室間孔辨ノ内側辨膜トナル。其他ノ房室間孔辨ハ室壁ノ隆起ニヨリテ形成シタルモノナリ。動脈幹ノ變化、動脈幹ハ左右ニ壓平セラレ、其扁平ナル側ヨリ各一ケ宛ノ縱隆起ヲ生ズ。之ノ隆起ハ、互ニ相對向

第十圖

A



B

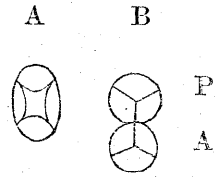


房室間孔ノ室間孔ニ對スル位置
轉移、并ニ室及ビ大動脈管ノ分
裂ヲ示セル模型圖、
室ヲ切半シ其ノ後半ヲ表ハス、
Born氏ニヨル
A. 頭長三、五、八密迷ヲ有ス
ル家兔ノ心臟、
B. 頭長七、五密迷ヲ有スル家兔
ノ心臟、

右室、
左室、
室中隔壁、
肺動脈、
大動脈、
S. 動脈幹ノ中隔壁、
O.i 室間孔、
F.v.o 總房室間孔、
F.v.d 右房室間孔、
F.v.s 左房室間孔、
O.ek 上内皮(心内膜)瓣、
下内皮(心内膜)瓣、

シテ發育シ、遂ニハ遊離縁ヲ以テ癒着ス。之レニヨリテ、動脈幹ハ二管ニ分タル。而シテ后ニ至リテ、外部ニ於テ、互ニ區別表ハレ、コ、ニ、大動脈及肺動脈トナルモノナリ。此分裂機轉ハ最初上方ヨリ起リテ次第ニ下降シテ室腔ニ進入シ、コ、ニ下方ヨリ漸次ニ上リ來レル室中隔ト、室腔ノ上方ニ於テ癒着ス。此ノ動脈幹ノ下部ニ於テ室中隔ノ膜様部ヲ形成ス。

第十圖



半月狀瓣ノ形成、ハ既ニ、幹分裂機轉ノ起ル前ニ始マルモノニシテ、幹ノ狹キ部分ニ於テ、前後左右ノ四ケノ膠樣組織ヨリナリ、表面内皮ヨリ被覆セルヲ、隆起ヲ生ズ。之ノヲ *Fretum Halleri* ト稱ス。之ノ際、動脈幹ハ二ケニ分裂スルヲ以テ、肺動脈及大動脈管ニ、各三辨ヲ有スルニ至ル。即チ前及側部二ケノ前半部ハ肺動脈辨トナリ、后及側部二ケノ后半部ハ大動脈ニ屬ス。(未完)

附圖圖解 [約自然大]

- 第一圖、右室腔、肺動脈圓錐部、及ビ肺動脈半月狀辨并ニ幹ヲ示ス。
 第二圖、左室腔、及ビ左室腔ヨリ見タル室中隔壁、大動脈ヲ示ス。
- | | | | |
|------|---------|------|----------|
| Ad. | 右心耳 | Ao. | 大動脈 |
| Ap. | 肺動脈 | As. | 左心耳 |
| Atd. | 右房 | Ats. | 左房 |
| Cad. | 肺動脈圓錐部 | Dsv. | 室中隔壁ノ欠損部 |
| Sv. | 室中隔壁 | Vcl. | 下大靜脈 |
| Ves. | 上大靜脈 | Vd. | 右室前壁 |
| Vm. | 僧帽瓣 | Vp. | 肺靜脈 |
| Vs. | 左室腔 | Vso. | 大動脈半月狀瓣 |
| Vsp. | 肺動脈半月狀瓣 | | |

正誤 本誌原著十七頁十三行 肺、肺膨脹不全、ハ 肺、高度ノ變血、ノ誤リ